



2026 (令和8)年 4月 No.171

## 「たいせつな事」

弊社のロビーに掛けてある大きな額には、

「人は生きていくにしか死ぬことはできない  
たいせつな事は  
どう生きてかたろう」と

揮毫されています。これは市内在住で書家の青木清華先生によるもので、シンガーソングライターのさだまさしさんと親しくしている先生は、彼の含蓄のあるたくさんさんの美しい詞を書き添えています。ところで、葬儀出棺時、遺族が何も飾らず、心から語られるご挨拶には、故人の人となりを見ることが出来ます。故人との関わりの中の一コマをとらえた先日のご挨拶は次のようなものでした。

「父は食えることが大好きで、よく一緒に食事に連れて行ってくれました。いつも『うまいなあ!』と喜んで食べていました。その時の笑顔と楽しい記憶をいつまでも忘れません。」

私は遺族が抱える遺影写真と、まだ若い子供たちの顔を見ながら、その時の熱気と食べ物のおいと笑い声の刹那を感じました。

また、葬儀に際して、一畳ほどの大きなメモリアルボードに使用する、故人の幼少期から晩年に至るまでの写真をご用意して下さる方もいらっしゃいます。

写真の中の笑顔は、まさにひと目で見る故人の一生で、さまざまな苦勞を乗り越えてきたものなのでしょう。このような多くの写真の中から候補を選び出す作業は、実は故人からの贈り物で、受け入れ難い死を認めることに一役を買っているに違いありません。額の書は、他人様との関わりなしで生きていけない私たちに、「どうせ生きるのなら」と問いかけているかのようです。この書に、思うようにならない長短様々な人生を感じます。

さて、お許しをいただけるのであればこの書の後に、次のように続けたいと思います。

「生きて行くことはできない  
たいせつな事は  
どう学んだかたろう」  
失礼いたしました。

株式会社溝口祭典 溝口勝巳

## イベント・セミナーのご案内

### 人形供養会

大切にしていたお人形。皆様もお人形も安心できるように私たち溝口祭典が橋渡しをいたします。皆様のご参列をお待ちしています。  
※詳細は、[本紙7ページをご参照ください](#)。

日時	5月16日(土) 午前11時~12時
場所	こすもす斎場 (八王子市元横山町 2-14-19)

### お盆セミナー

「お盆」そのものの意味合いや、飾り付け方、さらに棚経等、お盆に関連する事柄についてご案内いたします。  
また、実際にお仏壇での飾り付けや精霊棚もご覧いただけます。  
※他の日をご希望の方は遠慮なくご連絡ください。

日時	第1回 6月5日(金) 第3回 6月12日(金)	第2回 6月7日(日) 第4回 6月14日(日)	午前10 ~11時30分
場所	百具一心堂 (八王子市元横山町 2-14-18)		
講師	佐藤 愛 (百具一心堂・店長)		
定員・参加費	各回6名・無料		

### ご葬儀個別相談会

心配な人がいるけれど、何を相談したらいいのかわからない・・・そんな方のためにご葬儀の個別相談をお受けします。不安なこと・心配なことなんでも聞いてください。ご都合が合わない方は、別の日時でもお受けします。遠慮なくご連絡ください。

第1回	7月22日(水) 午前10時~11時、午後1時~2時
第2回	7月28日(火) 午前10時~11時、午後1時~2時
会費	無料
定員	各回3組

**セミナーはお電話で、事前にお申込みください**  
**TEL.042-642-0921**

会場：溝口祭典 こすもす斎場 (八王子市元横山町 2-14-19)

「さよなら」と「ありがとう」

# 人形 供養会



大切にしていたお人形。  
皆様もお人形も安心できる  
ように私たち溝口祭典が  
橋渡しをいたします。

皆様の  
ご参列を  
お待ちしております  
います



## お人形の受付

**5/14 (木)・5/15 (金)**  
10時～12時  
**5/16 (土) 9～10時半**



1083体の人形を前に木剣供養するお上人とお焼香風景

## 人形供養会

**5/16 (土) 11～12時**  
●場所 **こすもす斎場**  
(八王子市元横山町 2-14-19)  
●御導師 **日蓮宗本立寺 お上人**

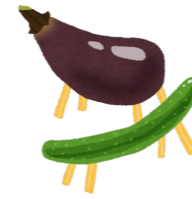


- ① 人形・ぬいぐるみ・こけしなど、お顔のついているものだけを受付けます。
- ② 陶器製・ガラス製、またガラスケースはご遠慮ください。
- ③ ご供養料 会員 1,000円 / 一般 5,000円 \*当日のご入会も歓迎いたします! ※入会者を紹介して下さった会員様は無料です。
- ④ 一家族様 45Lビニール袋一袋迄または5体迄です。
- ⑤ お写真もお受けいたします (50枚まで) アルバム・額はご遠慮ください。

八王子駅から徒歩約10分 / こすもす斎場・こすもす家族会館・こすもす会館・お仏壇の百具一心堂

●お申込お問合せ **042-642-0921** 株式会社 溝口祭典

# お盆、また会える。



百具一心堂  
店長 佐藤 愛



行灯の柔らかないかりを見ていると  
亡き人との懐かしい日々を思い出  
します。



お盆には待ち遠しい人が「帰ってくる」、そして「また会える」と楽しみにされている方も多くいらっしゃいます。店頭でお話をうかがっていても、そんなお気持ちがあふと伝わってくるようなことがあります。一年に一度、このように感じられる時間はとても有り難く、大切なことと思います。

ところで、日本のお盆には、「祖先の霊がこの世に戻ってくる」と考える

「家族で迎えて供養する」「墓参りや迎え火、送り火を行う」といった特徴があります。これらは、仏教・神道・祖霊信仰が重なり合いながら育まれてきました。特に「盂蘭盆経」という経典がもとになり、供養や布施を通して、その功德を亡くなった方に回し向け、苦しむ存在を救うという考え方も大切にされてきました。

お盆の飾り・精霊棚とお盆行灯



家具調仏壇や部屋の様式に合わせて灯籠も進化中



上の灯籠が主流になりつつある中、行灯の形も変化してきました



昔からの定番の銘木行灯



店内風景

店頭でお盆のご相談をお受けしていると「正しいやり方がわからない…」というお声をよく聞きます。迎え火は行わなければならぬのか、集合住宅ではどうしたらよいのかと不安に思われる方も少なくありません。迎え火や送り火が難しい場合に、弊社では盆提灯や行灯の灯りをその代わりにしていただくことを提案しています。

忙しい毎日の中では、故人をゆつくり思い出す時間は意外と少ないものです。しかし、お盆があるからこそ少し立ち止まり、思い出を語り、感謝の気持ちを伝えることができます。それは亡き人のためであると同時に、今を生きる私たちの心を整える時間でもあるのかもしれません。

その想いをかたちにするもののひとつである行灯には、素材や絵柄、光のやわらかさにまでこだわったもの、華やかなもの、落ち着いた趣のもの、現代のお住まいに合うすっきりとしたものなど、た

くさんの種類があります。飾りとしてだけでなく、故人への贈りものにも故人に思いを馳せる。その時間こそがお盆の大切な意味なのではないかと思えます。

さて、弊社では五月二十三日（土）よりお盆セールを開催いたします。店舗二階にて、大々的に展示いたしますので、ぜひお越しください。おかげ様で、毎年数多くのお客様にご来店いただいています。現在その準備を進めていて、今年はお客様とのどのような出会いがあるのか、スタッフ一同心待ちにしております。

合わせてお盆セミナーを開催（六月五日、七日、十二日、十四日・小紙八頁）いたします。お盆のことをもっと詳しく知りたい、何もわからないままお盆を迎えるのは不安という方はお気軽にお越しください。ささやかではあります、皆様のご供養をお手伝いできれば幸いです。



# 車椅子で あるく ハワイ

伊藤 恵里子 第3回

前回は保険の話。今回は車椅子についてです。まずは旅行代理店に現地の車椅子事情を調べてもらいました。意外にも備え付けのないホテルが多く、宿泊予定先にもありませんでした。日本よりバリアフリーが進み、車椅子は常備されていると勝手に思っていました。そうなる、日本で借りていくか、現地で有料手配をするかの二択。母が福祉用具を借りている会社では、短期レンタルはないが社会福祉協議会で無料貸出があると教えてもらい問い合わせました。事前予約はできないようですが、在庫があれば無料で借りられ、航空会社も車椅子は無料で預かってくれます。迷った挙句、航空会社に預ける時の手続きを面倒に思い、現地手配にしました。

出発時の空港内でも車椅子を借りましたが、空港スタッフの方が、搭乗口までのエレベーター移動や現地空港での案内を提案してくれました。歩けないわけではなく、利用していいのかわかりませんが、お願いすることに。現地では飛行機を出てすぐの所に車椅子を携えた女性が待機していたのには驚きました。入国審査も優先レーンに誘導され、現地手配の車椅子に乗るまで面倒を見てくれました。（当然ですが、優先レーンへは母と付き添いの妹のみ、娘と私は長蛇の列に並ぶので、決して空港を早く出られる

わけではありません。）

今まで気づきませんでした。空港内で車椅子の方を案内しているスタッフをたくさん見かけました。どの人も丁寧で、にこやか、まさに「エスコート」という感じでした。

現地で借りた車椅子は誰かが押すのを前提とした介助式で、自走式よりタイヤが小さく、押すのに力が必要でした。介助式は、体格が良い人・体重が重い人を介助するには大変だと思いました。預ける時の手続き等を度外視すれば社会福祉協議会から借りた方が操作性は良かったのかもしれません。

それでも街中を移動するのに困ったことはあまりなく、店の入り口は階段でも、声をかけると別のバリアフリーの入り口を案内してくれるなど、人に優しいまちづくりをしていると随所と感じました。

現地の人もとても親切で、ビーチで空の車椅子を移動するのに苦労しているとさりげなく手伝ってくれたおじ様や、母がプールから上がるのに難儀していると手を貸してくれたお相撲さんのように大きな男性など。現地でたくさんの方の笑顔と親切をいただき、気持ちよく旅をすることができました。結局、母は前号で書いたようにケガをしての帰国になりましたが、楽しい思い出もたくさんできた旅でした。

# 鎌倉萌え散歩

## 第8回 名越・朝比奈・仮粧坂

表題を見てピンときた方はかなりの鎌倉通であろう。これらは、鎌倉七口の中の三つの切通の名称である。鎌倉七口とは、三方を山に囲まれた鎌倉への入り口が七つあったというもので、鎌倉七切通とも言う。表題の三つの他には、建長寺から鶴岡八幡宮へと向かう「巨福呂坂切通」、以前ちよつと紹介した長寿寺横の「亀ヶ谷坂切通」、大仏裏から藤沢へ向かう山越えの「大仏切通」、長谷から極楽寺へ向かう「極楽寺切通」などがある。このうち大仏切通を除くと、他は切り開かれて、現在は車も通るような一般道になっている。今回は少し街の中心部を離れ、当時の面影を残す切通を紹介してみたい。実にエキセントリックで深味のある試みだ。

切通はかつての街道の途中にあるが、街道と言ってもほぼ山道である。散歩の際は歩き慣れた運動靴、出来れば登山靴で来ることお勧めする。散歩の時期にも寄るが、平日だとだいたい一人ぼっちで寂しい山道を歩くことになる。周りは一面の茂みで、さすがに熊は出ないが、リスや山鳥のガサゴソという音に始終びくつくので、出来ればお友達を誘って賑やかに歩いて欲しい。散歩の向きとしては、鎌倉から外へ出る向きに歩いてみよう。

名越（なごえ）切通は、鎌倉の南東方向に位置する。鎌倉と三浦半島をつなぐ要路で、浦賀までつながっていたらしい。大町大路をずっと行って名越坂踏切辺りが入り口だ。山を越えるので、しばらくはひたすら上り坂を歩く。途中で脇に「まんだら堂やぐら群」と出会う。やぐらというのは鎌倉でよく見る横穴式のお墓跡である。鎌倉の山は鎌倉石と呼ばれる柔らかい砂岩で出来ているところが多く、掘りやすかったのだ。ここは百五十穴以上もあって壮观だが、期間限定公開となっており、普段は近くで見ることが出来ない。山道に戻ってさらに進むと、やがて切通が見えてくる。狭いところは幅一メートルも無いんじゃないかという狭さである。元々はもう少し広かったのが、石が崩れて狭まったらしい。別の北に向かう分かれ道を行くと、大きな石切場の跡も見ることが出来る。鎌倉石を眺めるには名越切通ルートがお勧めである。

朝比奈（あさいな）切通は、鎌倉の北東方向にある。金沢街道をずっと行って、十二所神社の前の信号が入り口になる。かつて六浦道と呼ばれた街道で、東京湾や房総半島と行き来する道だそう。しばらくは平坦だがその先は切



名越切通から三浦半島を臨む



くすると、熊野神社への分かれ道に出会う。こんな寂しい山の中に立派な社が構えていることに驚く。ちよつと離れるがもう少し足を運ぶと、鎌倉一梅の木の本数が多い十二所果樹園もある。

仮粧坂（けわいざか）切通は、鎌倉駅の西側、扇ガ谷の海蔵寺へ向かう参道を左に折れてしばらく行くと登り口が見えてくる。この切通は鎌倉防御上の重要拠点で、新田義貞の鎌倉攻めの際には激戦地になったそうである。歩いてみると分かるがとても狭くてめちゃ急な坂道だ。当時のままではないだろうが、こんな狭いところで戦をするなんて、さぞかしご苦労だったことと思う。でも戦がしばらくからこその切通か。登った先にある源氏山公園は、源頼朝像や葛原岡神社などがあり、桜や紅葉の名所でもある。更に進むと銭洗弁財天も近い。いそいそと一攫千金を祈ってもよいのではなからうか。

これらの切通を一度に巡るのはちょっと大変だが、とりあえず散歩の後は街に戻って甘味処やお土産屋をひやかすのが粋人である。ひやかしではなく、鎌倉のお土産と言え「鳩サブレ」が名高い。「鳩サブレ」は豊島屋初代の思いや鎌倉に対するこだわりなどが詰

通まで上りで途中に湧き水で路面が濡れている箇所があり滑りやすい。愛らしいお地蔵様が祀られていたりする。頂上の切通は幅四メートル、深さ十メートルほど開削されており、切通としてはこの上なく美しい。伝説上は豪力で知られた和田義盛の三男の朝比奈義秀が一晩で切り開いたと言われている。切通を越えて下りになってしばらく

まった銘品である。しかし今やその人氣に並ぶのが鎌倉紅谷の「クルミッ子」だ。製造工程に手作業が含まれているため大量生産が困難だそうで、早い時間に行かないと売り切れてしまう。その中で密かに人氣なのが、その製造工程で生じる端っこ部分をまとめて袋売りする「切り落とし」である。「切り落とし」は超お買い得商品なのが、以前は普通に店先で買ったものが今やあまりの人氣で開店前に並んで整理券を入手しないと手に入らない。前から述べているように、私は混雑が苦手なので、行列に並ぶなんてまっぴら御免である。鎌倉も小町通りや若宮大路周辺は、あまりの人数にもはや近寄り難い。しかしちよつと離れると、まだまだ静けさの残る萌え処は多い。この散歩も最終回まであと二回。お楽しみ頂ければ嬉しい。

ところで勤の良い読者はお気づきであろう。今回のお題「切通」と「切り落とし」が駄洒落になっていたことを。「落ち」の説明をするなど野暮なのだが。

文と画像 粗学 夢幻（そがくむげん）  
十代の頃から鎌倉に惹かれてもうすぐ半世紀。ぼけつつある頭を叱咤し、令和5年鎌倉検定三級を、令和6年二級を取得。鎌倉に住みたいと思いつつも八王子から通い続ける写真が趣味の昭和男子。